

中御門家記録

長勲題



四三八



三

左

斗と夜人并々

夜人休々

本一りり内侍不降時邦ふは例の

ふは例の

工

大判

夜人中替重々

退

一三付の恒例の事ある存初也

一諸司下行事有馬物司内也且其後見子あり

一地下不作人事出知催之直不及沙汰也

一於降時者雖一人云所不作人必可作事

上り

右中弁

斗

斗と校弁あり

追儼こし信津新老辰

天家親近あり

上り

右中弁

斗上ふねあり

追儼は例より申所なり親近あり

上り

右中弁

夜人中務あり

追儼は例より催所なり快あり

上り

右中弁

四五史あり

大夫史あり

追儼

公卿

中納言一室お

少納言

弁

六府

歲方臨時公事亦奉行事



凡此修訂公事者隨管領頭占奪軍沙汰之
或又自市以直有收序下事不依時儀也

○神事

一社奉幣事

神宮以下

一祈雨奉幣事

付止而

○陣宣下条々事

一立親之事

一門大后事

一天台后主事

一開白事

一准后事

一贈官后事

一國師号事

一小陰目事 付小叙位

一任大占節會事

一別殿行幸事

一詩宴宴事

一云卿分配事
一舞市貨事

以上大概目也尚 有一書裁事也
代始重事亦一向不裁之別可抄乎

二社奉幣事 伊勢

催余

一日決事 一上下并小市取事 一内侍出車事

一使市馬事 一先於車時定事 一四生吏事

日時定 上卿并以下各陣事

陰陽寮事陣事

各各陣不事行、内付日時勅
文お奉行職事、下史以其由

被行

一内記本陣事 宣令

一市南殿市拜事

市叙將脂燭殿上人事 職事早奉事

一惣用事 被原武家之儀

一市叙二腰市馬二正自武家被を事 以消息作事
か人如惣用

市教書事

或又

来、日の被みぎ奉勢使お 伊勢太神文のこし いふたふん

集の諸君依
天氣云上の件

月り

た

進上 大御方殿

礼部云
也言上

うき日町定月といふは後々御り
刻限の、刻といふは初め也

利^并、いふは後々ききき使はる伊勢太監とい
奉白給者依

天氣執事上

月り

進上 伊勢

や

この日町定月といふは後々御り
刻限の、刻といふは初め也

利^{出車}、いふは後々ききき使はる伊勢太監とい
奉白給者依

天氣執事上

月り

利^{極高}、いふは後々ききき使はる伊勢太監とい
奉白給者依

天氣執事上

月

伊勢中務殿

也

友局
うき日時計ありて清く月を照らす
来りて夜をききお使お使は太神内則に
信ありてなり

月り

一判

四位大外記あり

大夫史あり

也

内記

一より日時計月よりなる初也
来りて一よりなる候は太神内則に
可令るを候者なり

月り

月り

斗と大外記あり

也

参陣する必しなる初也

市

一市并出市南殿なり
来りて一より出市ありて一より市南殿なり

月り

月り

脂

斗と一より中あり
来りて一より出市ありて一より市南殿なり
天の氣あり

月り

一上卿事

一弁事

一内記事 宣令

一使事

ハ非我官差文催之
直不催

一非馬車

作察家

二下知極簡ある事

一幣料ハ下知日正行奉

可付長橋

有

上

御教書

ハおきわめを祈る事幣使しと云ふことおめを

今夕為祈ある事を幣丹止書丹社に事

祈考候

天氣言上ハ中一斗

月

檀考中弁

通上ハ中知て候

出言上

并

い夕為祈ある事を幣丹止書丹社可令

赤陣迄考候

天氣挽進の件

月

檀考中弁

内記

斗上ハ中弁あり

今夕為祈ある事を幣丹止書丹社 宣令

は例としてる事を祈考候

天氣挽進の件

月

檀

斗上ハ大内記あり

○小除目 叙位大概月々々

条あり

一可相尋日取事

一何人少形事

一上卿并系該事 執差之新 一并事

一諸司下行事 一不知極腐事 一不知西局事

一御教書と極事

上 米 一 日々被り小除目二つとも被りたる

天の氣言上め件

一 あり 右大弁

多 米 上 一 大細事

米 一 日々被り小除目二つとも被りたる

一 あり 右大弁

并 斗 上 一 右大弁

米 一 日々被り小除目二つとも被りたる

天の氣言上め件

一 あり 右大弁

極 斗 上 一 右大弁

米 一 日々被り小除目二つとも被りたる

一 あり 右大弁判

あ 米 中 務 事

米 一 日々被り小除目二つとも被りたる

一 あり 右大弁判

新大外記
大夫史記

一 散状奉

小除目

上

一 大納言

一 大納言

一 大納言

一 大納言

一 立親 宣下奉

一日以奉

一 市名字奉

儒卿并翰林之間隨時儀

一 上卿奉

四例諸卿少ニ恭著

一 年奉

一 下知極薦奉

一 下知兩方奉

一 諸及下行奉

一 可進散状奉

一 勅別當奉

其仁量何定了及

一 家司職奉了申定奉

書形身ノ於本不

了申上卿や

一 来りりり

一 宣下奉

今在行経老依

一 天の氣云々上め件

一 上

左中弁

一 多上

一 大約云々

一 也云々

一 二め立親

宣下二いゝおが得也

中

斗上 奇々

𠂔

極簡

二稿
 てお立親と
 米よりての
 富下事は例に
 左中芥判
 初稿也

藏中寶庫

女

朱
一
宮
中
判

四庫全書
新大外記

中

二、相互親睦
宮下町を初め

一下御否事

高檀帑一投ノ中秘ニ聊アケテ天清る字ニ字出
之卷之不加素懸成り如也予抱之胸秘ニ危リニ
出陣下上局々結申之藏事作之詞親王トセヨ

胸秘ニ危リ
おろめ吉云々
親王トセヨ

應安四三十一後日轉院立親日記云使主府司
置硯紙於鬼同於件所仲光書之字櫃
帝乃取書沛石字二字其外家司藏了
交名同書之抄身懷中本侯召后上硯
お鬼同全書之例に硯内と申出さるに

教説了

一勅別當可宣下事

三應三十二立親之宣也上卿三条大納言實
則勅別當也職事仲親曰久明親之

家別當也上卿石井曰實宣了の勅

別當自身奉行同被稱石井也

應安四三十二立親之宣下上卿西園寺大納言

公永職事仲光曰云權中納言為至朝也

為勅別當抑非上卿者可作否と片
字欲假令權中納言否朝也永為弔之
時作親如右例也或又為某親之勅別當也

一親族拜事

一勅別當奏慶事

一家司職事以下文右可下上卿事

應安四記云上卿奏勅別當慶事著屋上

杯仲光致示云家司職事文右於此云の

致下之答曰お親也此方云云了奉下之

由存如何重致示云此月宿之候お同屋

上致下之例也此上名後訖申すお致仲光

懷中抄帛二致入上云執知之府上自權先

取出家司文右下也作云家司基明初也

云云物言被見後被置前而取云取出家事

文右下之作云職事頭保朝也、侍監侍

者藏人お不作之口向宸儀出御上六盤云

仲光被作下云お内願上致下家母交右
之条何度例哉^〆お尋者仲光物納
言^〆下示^〆勅定^〆有^〆致申^〆云^〆律^〆月^〆宿^〆者
寛元^〆近^〆例^〆之^〆件^〆度^〆め^〆付^〆者^〆則^〆条^〆律^〆前^〆戸^〆
其^〆由^〆一^〆次^〆勅^〆別^〆當^〆自^〆堂^〆上^〆来^〆者^〆親^〆上^〆律^〆
方^〆云^〆御^〆方^〆一^〆
一^〆法^〆親^〆王^〆宣^〆下^〆事^〆
上^〆卿^〆以下^〆條^〆大^〆略^〆月^〆前^〆但^〆近^〆代^〆有^〆略^〆低^〆
亦^〆有^〆之^〆款^〆随^〆時^〆候^〆了^〆申^〆何^〆方^〆者^〆乎^〆

一^〆開^〆白^〆宣^〆下^〆事^〆

一^〆開^〆白^〆宣^〆下^〆事^〆不^〆書^〆其^〆事^〆只^〆宣^〆下^〆ト^〆分^〆リ^〆書^〆云^〆又^〆勿^〆

上^〆上^〆

一^〆大^〆納^〆言^〆

并^〆

一^〆日^〆次^〆事^〆

一^〆上^〆卿^〆事^〆一^〆并^〆事^〆

一^〆詔^〆勅^〆書^〆事^〆作^〆内^〆記^〆

一^〆中^〆務^〆御^〆事^〆

一^〆極^〆薦^〆兩^〆局^〆亦^〆可^〆相^〆催^〆事^〆

米^〆一^〆り^〆二^〆り^〆宣^〆下^〆事^〆可^〆なる^〆御^〆方^〆依^〆

天^〆氣^〆之^〆上^〆め^〆件^〆

一^〆り^〆右^〆中^〆并^〆一^〆なる^〆

系^〆上^〆一^〆大^〆納^〆言^〆なり^〆

礼^〆部^〆に^〆出^〆る^〆也^〆云^〆上^〆

内記

この開白 宣上月二の辰初時より夜半まで
米一斗のりての開白 宣上るより二の辰時迄は依
天氣候を以て件

お中并

中務

斗上 大内記あり
米一斗のりての開白 宣上るより二の辰時迄は依
天氣候を以て件

お中并

斗上 中務方人御あり

一斗 極薦 両局お催同あり

一詔月時他 宣上ふあり事

長者牛車 兵仗内儀あり事 上左開白

例幣 神祇土清いことより奉給の上候あり

九り ちがなり

斗上 乃并あり

神人供あり

十月

一日更衣平戸

云抑并 勅書以下催月十四日

興福寺維摩會

一誦師請事 一并奉向事

以上為長者之下知南曹并申沙所より

十月

平野祭 月晦時祭

春日祭

梅宮祭

大原野祭

園井韓神祭

吉田祭 以上月于春夏之季

豐明節會

豐明平戸事

催条

一云歸車

一并知言事

下知極鴈兩局事

市教書

市教書 市教書 市教書 市教書

豐明節會 二力平戸可しし事は殆ど依

天宮之元上め件

詔一ヶ条後日他事おれ宣下之方古事

二ヶ条或三ヶ条剩又五ヶ条同時宣

下之五流之例不同也而此は本家故申

請方了申 洲内者平 別あり

お状

二任大臣節會事

催条

一並 宣旨事

近代大樹外無沙汰歟

一日次事

品凡記因定且下談昇金入る事何れ也

月り

きー

四位史り

お

新大外記り

任大長節云

公卿

大納言 中納言

中納言 中納言

朝長

お納言

朝長

并

次將

左

朝長

右

● 一 於陣中任人事

一兩三人之時以調作之及教軍之時書

折紙 宿紙ヲ折 合懷中土陣一兩人取

お折紙下々 固實也

永久作

作詞聊ふ月為職多し 而為歟今古例少 裁之

以內大長可將右大長以授大納言藤原忠一 以內大

是親父用白依賞奉云勞也以檢大納言家
忠臣實以將大納言以檢中納言仲實一以檢大
納言以中納言之能實顯通了將中納言以奉本
重資了以中納言以右近中納言并檢右中納
實行用也亦不可不奉本者

大畧以折
帝書之

永保作初

以右大長乃左大臣以右大將源朝長為右大臣依格
勅勝他也以左大將藤原朝長為内大臣依親又
開白功勞以權大納言藤原朝長實字為大納言
以中納言源朝長為權大納言以奉本藤原
朝長家忠為權中納言以大藏卿為一朝長
長房右近衛中將保實朝長為奉議宣令
令造者

保安三長以為隆作訓

左大臣雅實太政大臣上給用白内大臣左大臣
依位次從一位增給大納言家忠右大臣上給
各依官次權大納言有仁朝長依為近親内大臣
又中納言能實朝臣大納言宗忠朝長顯俊
朝長忠教朝長ホハ權大納言權中納言顯雅
朝長實隆朝長中納言奉祓俊忠朝長實行
朝長顯隆朝長長忠朝長ホハ權中納言左近中
將實能朝長權中納言師時朝長為隆朝長
ホハ奉議官上給由令尊宣令

今案 文三三作詞
資無前以權大納言藤原朝長勝光為内大臣以三三位
官也作本 藤原朝長資無月政家為權大納言以奉議
位政家也 藤原朝長實仲為權中納言 宣令令造
何不作 權中納言哉尚可尋之

一宮次 宣下事

節令畢於陣中 宣下之後日又為別
一大將以下還 宣旨事

橘家大略他日為申候本家一戶沙所者哉

一任槐 宣下事

如急事節令不事以時お陣中 宣下

權余し

上局 弁 權余し 西局迄外下可有殊儀

作以人事如阿

市教書事

斗、り、り、宣下事、り、奉、り、候、事、候

天氣言上女件

月、り

毛上 一 大細、り、

也言上

弁

二、め、り、大下事、り、候、事、候、也、之、候、事、候、

斗、り、り、宣下事、り、候、事、候、

月、り

一、

斗上
右中并あり

上

可わは下るゝと云ふ初稿也
里々々々々々々々々々々々々々々々

月
の

四位史公

大夫外祀所

𠂔

二、おは下事てら存知也

一准三宮
宣下
法中月之款不及月之

可憐

一上卿事 一升事

下勅書平
持参不示

一極兩爲事

外記年官年爵
官封戶事也

上

[illegible]

月
五

卷上 大納言

止音

[illegible]

馬

月
々

1

斗上 大内記あり

と

この准所 宣下るべき事知れども
けの催書様月前

○天台座主 宣下事

●可催ゆは各

上卿事 一井事

一物言事 可持向宣令事

佛教書

一内記事 宣令
一極薦西局事

^上米、り、の、宣下るべき事知れども

天氣云々上り件

宣下 中記事 右

也云々上

^井一、天、名、宣下るべき事知れども

米、り、の、宣下るべき事知れども

天氣概述

月、り、 右

斗、と、 橙、赤、り

と

二、天、名、宣下るべき事知れども

米、り、の、宣下るべき事知れども

天皇概述

月、り、 右

内記

脂燭事

米、りてゐる 行幸別ありて脂燭給
去儀

天皇御連、

月、

斗、くわゐる

くわゐる

上、りてゐる

行幸別ありて、
上、りてゐる

月、

斗、くわゐる

くわゐる

米、りてゐる 行幸別ありて、
上、りてゐる

斗、くわゐる

月、

天皇御連、

○云卿分配事

旧抄云云 勝頼中大長春、
外記ありてゐる

信、りてゐる

上卿事

一、議事

不書定
文事

一、極、脇、友、乃、事

一、評、教、書、事

一、職、事、分、配、事

一、并、官、分、配、事

一 出車分就事

以上列て載る

一 享徳二六十九權大外記康富記云公卿分配

正文一卷

端書副宣旨
加乳多

諸卿廻覧畢申白

文殿

宣旨より
行寛

返給し口面覧先下市訪

之由申し乃何極可申為事の残る

寛正五四、賀茂全解陣し被り公卿分配

上卿白野大納言

勝光

参給ふ事有繼

藏り、慶光大外記中、師藤朝長以下参る

定文奏用事被返上下卿外記下之由。

二 國體鑑

催多

一 上卿事

一 弁事

一 内記事

一 中務卿事

下勅書事
持奉寺家子

一 下知極薦女事

一 幼女勅使令持向勅書お寺家事

明徳三八七常光國師号勅書權中納言

資貳卿持向寺家畢并官尋寺事例也

ゆら原右大夫宣光所長之処辰目下勅書退

る所為時分被て奉向殊又又寺家

也

應永十の十八泉涌寺開山俊成上人國師号

勅書權中納言豐房持向寺家今度ふ
及陣向々

○詩書會事 中殿侍作文々

●

一日記事

一題者事

原才一儒二又隨時議

一文人侍所事

又

一兩役有之事

一臣下侍所事

一侍所事

一侍所事

一侍所事

一侍所事

●侍所書

八

八春字

或是中取韵二随江進

右侍所

侍所書

天氣言上

月

左中侍

色上 大御所

也言上

二ある應 製長上字二とある初稿も同也

少古也言上

八

八春字

右侍所 米り可被披指凝凡傳二と豫奉

老依

天氣言上

月

斗上 文孝の侍あり

中

この庭制長上字ところなるが如く也同
い何れ也

不役の上人

来りてこの侍所今不役として勤作を
依

天氣観望の月

月

大平元

望 一の侍あり

一韻字事 依題者之旨を歌下ニ書く

一應

制長上之年中殿宴以前侍り去へ不云

歌の精熟なる所を歌に載る者也又此等

庭制あり字に書長上字事あり其禁

仙代始晴侍所大略載る能く勅加え親

同定所議す申す侍者乎

一三

和度お院より侍り侍所院日治部卿侯

光り侍り院

宣ひ公の自然書載る者也

常花咲万春

題中取韵
絶句

松浮雲水

右侍所の歌来り可なり被披掛凝風情

可令豫奉給る也

新院市常色なり也何れ歌なり

三ノノ

法了の後光

斗上 花山院大納言

上殿

初言の書に被書夜 制をいふ所
列限てぬ未列也

一市

檮紙中出之

用重之

具所布

年号月日

市會ト書テ其下ノ注ニ 影者長下納言所

市製納言所ト五段出之 畏高檀弓ノ灰

柳莖以帛捻結中令返上者也

同所ト習先達ニ所伝やぬト云テ 柳余

漢制初卷ニ録テ其類ニ云テ 同所ト

市

詩市會

云

開白

内大長

大納言

中納言

中納言

中納言

左近衛

初長

右上人

初長

初下

初長

初下

初長

初下

應永記云所役有上人の書我哉如何可
尋知也今案叙^レ除目以下所役有上人
裁く者也然者何不裁く哉尚不可尋く

二和歌清會事

案、月三詩言あ歌尚不可裁く

一勅題事

應永寸六三寸八記云今度勅歌鶴孤砌也

所裁云々振下云々ありぬや云々雅く

少及曆十二寸七仙洞清會勅題也件度

所見も相傳り給ふ事裁り裁り事

云々被治定

一歌林あま可有國字成否事

應永十九三寸和歌清會也歌禁庭是方

為手云歌之撰作云々國字裁事有

何故以初く准持云々國字之案勿得

仍文保禁庭正中禁庭永治會一戸無國字可

為如何振裁云々ね後必書廿中勅へ入通之

事云事律ありふ案内ハ後ハ執柄云々

是云以初く准持云々云々雅清

抑下云々案云々云々令視録ハ但時得てゐ

る極裁云々案内ハ後因り入る事云々

國字より由り 天皇幸方へて略
西園寺大納言 秋中納言 民部卿 少弐子ねね
尹賢明長亦有願也

○舞市見事

条々大概享徳二三月舞市見事の分
或く旧例尚又可動入る

催事

一日以事

二所作人事

至要相約言及大
随市遊了催る

一着庄云事 市遊

二所作所上人事 月

一三和歌福事

一地卜所作人事

一舞人事

一地下所作人事

一馬序生事

一月笛事

一舞市見事

一播磨都下

一和歌浦新傳事

一門守護官人事

一慢事

一采女下事

一假理藏
沙古

一物用事

市遊 市遊見事

一舞市見事 市遊見事

市遊見事 市遊見事

月

市遊見事

市遊見事

市遊見事

市遊見事 市遊見事

雨作納之
張一日二日年清後令春は後を依
天氣云と云

月

大中元

冬上 大納言

上二

雨作

雨作一お苗同うたうえやと斗
来りりてり年清後人こと春は後を依
天氣と云と云

月

大

斗上 中納言

也

天氣執事

月

大

斗上 中納言

雨作
来りりてり年清後人こと春は後を依
天氣と云と云

月

大

斗上 中納言

暑
来りりてり年清後人こと春は後を依
天氣と云と云

月

大

冬上 大納言

南都寺勢

南都寺勢
米一り一の
舞う踊ん
南寺に舞將云米へ下
目録より為る可く云々やら印り也

月
h

興福寺別當僧正之家

小橋社務

新、りこゝろ、市々、流し、南文、北世、ある
目、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

月日

格校法下ノ成

[illegible]

月日

たつしん

斗上鴨社福豆反

賀茂社神主

散狀

舞御覽

享從西十六奉行乃左中并紹光朔卡書進

望

按察

山科宰相

夜ニ行クヲ書ク
粒ハ少ク者後ニ夜朽ク
可書ク他事効ク

前登清緒

伯二位

右衛門督

家秋朝臣

卿

秋

村

秋

高秋 緣秋
恩秋 治秋
言秋 康秋
奉秋 仲秋
豐原胤秋 月直秋
月賢秋 月具秋
月冬秋

畢公采

前源宰相 二弟
安侯字長 月李久
月李清 月李继

景清 景勝
京藤 景康
景幸 景人
大神京音 月京重
琵琶

今出川大細言 基有相長

半

公澄朝長 李春相長
實仲相長

著戶云卿 見澄云云云云

德大寺大細言 久秋大細言

官中納元

花鳥井中仙

日聖初中仙

舞目六

舞律說

泰音多

千秋永破

阿摩

二舞

左

太

万歲天

地久

春庭天

古名模

月吹角

出仙

羅陵日

納雷利

梯桑老

退玄極

太平天

柏梓

還城天

拔頭

退書音多

長多子

始謂朝廷恒例諸台吏自公卿暨官外記各
自奉仕乎其官者次靡年中臨時之行誨類
多不梧擷于茲焉寔是先哲之遺箴職事
誦人之書鑑也彼卿永和一品之廟孫當家
累世之裔屬也為有所撰出之典實而未廣
布于世者多暇日叩日野前垂槐弘資卿之
芸亭卿令曰有此記不覩乎予云未輒乞
之謄寫焉復加校讎訖矣寬文二年丁酉月
良辰書于引睡堂

前大納言 房

此一帖以柳原前入納玄賢行自筆
之本合書字如朱并一校字

寬文三年初冬仲旬

黃門侍從藤原



